

平成30年度 さくら幼稚園自己評価結果報告

学校法人敷島学園 さくら幼稚園

1. さくら幼稚園の教育目標

- * 健康 元気で正しく歩む子ども
- * 和敬 豊かで美しい心の子どこ
- * 快活 明るくはっきり言える子ども

2. 教育方針

建学の精神である「健康・和敬・快活」を教育目標とし、創立以来50年の歴史と伝統の上に、よりよい環境の中で、多彩な行事や体験を通して豊かな感情を養い、一人ひとりの心づくり、体力づくりに努めることとし、下記の方針のもと「特色ある幼児教育」を追求する。

- * 子どもの自主性を育て、遊びを通して豊かな人間性を育む。
- * 「本もの」に出合える保育を追求し、Only Oneを育てる。
- * 人と関わり、地域社会への貢献につながる行事の工夫。
- * いのちと安全を守る力を育てる。
- * 教職員の指導力を高めつつ、一人ひとりの園児の実態を、全職員が共通理解することにより、行き届いた保育と質の高い教育ができるように努める。
- * 多彩で豊かな園行事の実施
- * 子育て支援の充実

3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

教育方針をさらに深化し、地域における子育て支援活動の充実を目標として、積極的に未就園児を持つ保護者（幼児）ともふれ合い活動を実施する。

- * 遊びの指導と工夫
- * 読書活動の推進
- * 専門教育（英会話・茶道・体操・器楽・絵画）の実施継続
- * 教職員資質向上のための園内外研修の実施
- * 未就園児とのふれ合いを中心とした「さくらんぼ広場」の充実
- * 預かり保育の充実

4. 評価目標の達成及び取り組み状況

下表の大評価項目をさらに分野ごとに小評価項目を設定し、全職員による自己評価を行った。(結果要約)

評価項目(大)	取り組み状況及び結果
保育の計画性 教育理念・教育方針・指導計画・環境の構成	大半が達成されていると評価。 ・ 計画性を持ち、準備・行動に移しているが、もっと臨機応変に対応できるように心がける。 ・ 年度初めに園内研修にて、園の教育理念・方針の確認について園長講話を行い、職員の意識の統一を図ると共に、共通理解を深める。 ・ 教育課程、指導計画の見直しをはかると共に、加筆、訂正を行う。 ・ 行事計画を主任者会議等で話し合う機会を持ち、子どもの実態に即した内容になるように努める。 ・ 計画、実施、評価、改善を日常的に行う。 ・ 大切な事を意識するための指導計画を立てて、子どもの小さな変化を読み取る事。 ・ 評価項目に従って自己点検を行い、自己評価を実施する。
個人記録の作成・保育と計画の評価及び反省	大半が達成されていると評価。 ・ 行事ごとに反省会を行い、外部からの評価等を検討。また、学期ごとに自己点検・自己評価を行う。 ・ 日々の記録を参考にして、子どもの実態を把握。また、担任以外でも都度の気づきを互いに連絡し合い、次の保育に反映させるようにしている。
保育の在り方・幼児への反応 健康と安全・幼児のみとり・指導とかかわり・保育者同士の連携	大半が達成されていると評価。 ・ 月1回以上の遊具及び園全体の安全点検を行う。安全第一を職員の合言葉とし、毎日の保育室の点検、また、消毒・除菌に努め、園児がより良い環境で過ごせるようにする。 ・ 配慮を必要とする園児について、全職員での共通理解をはかる。 ・ 学年間だけでなく、各学年主任間との連絡を密にし、「報・連・相」を大切にす。 ・ 幼稚園での一つひとつの活動を楽しみ、幼稚園が好きになるように心掛ける。 ・ 子どもが一日安心して過ごせる環境作りと、自信を持って自己を発揮できるよう場所の確保をする。

教師としての資質や能力・良識・適正 専門家としての資質能力及び良識・組織 の一員としての在り方	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 全職員による研修を行う。「安全第一・報連相・プロ意識での考勤・笑顔愛語」を合言葉に、個々に組織の一員であることを心掛ける。また、学期ごとに自己点検・評価反省を行う。 教職員の資質向上のため自己研修に努め、考勤すること。 道具や時間の使い方、また、仕事の上手な簡素化を図る。 「何事も丁寧に…」が、質の高い教育と保育をもたらす。 学年同士の話し合いを密にし、お互いの意見やクラスの様子等を十分伝え合い、保育に活かせるようにしていく必要がある。 疑問に思った事やわからない事などは、すぐに先輩の先生に相談することができた。
保護者への反応 情報の発信と受信・協力と支援	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 年間で4回参観日を設定し、園児の園での様子や成長を見てもらう機会を持つ。 保護者への情報提供として、園だより・園長通信・種々のお知らせ、園サイト・連絡帳の活用・伝言等で家庭との連絡をとる他、参観日・行事を通して子どもの成長を実感できる機会を設けた。 保護者参加型の行事や催しの仕組みづくりをすること。保護者の人数の多さがプラスに働く。
地域の自然や社会とのかかわり 地域の人々とかかわり・小学校との連携	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 来園者と会い談話する中、応援者がますます増えてきた事を実感。 自慢できる事、やり方等、地域で語り合える環境をつくる事。
研修と研究 研修や研究への意欲・専門性・園内研修	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 新しい情報を素早くキャッチし、耳を傾けること。心を届けること。自分も出向くこと。 園内研修の反省やアドバイスから、設定保育・自由保育の垣根を越えたスムーズな遊びを提案できるよう心掛けたい。 「本もの」に出合える保育を追求できるよう、知識だけでなく自分自身も楽しみながら体や感覚を使い、技術を身につけられるような研修に参加したい。 自分の特技を生かし、楽しみながら保育できる環境である。 小さなことを継続してこそ実を結び、実行に移すことで変化をもたらす。
子育て支援の充実	満3歳児保育及び預かり保育の充実を目指す。就労の母親が増え、早期入園・長時間保育の希望者が多くなったことから、子どもの居場所の確保と通常保育終了後は、家庭的な雰囲気の中で預かり保育を心掛けている。
特別支援教育	家庭、また医療・リハビリセンター等の専門機関との連携をはかり、個々の園児に対応して支援の計画及び保育にあたるよう努める。
財務運営の状況	監事監査、公認会計士検査を受けており、当園の財務は適正かつ正確であると評価されている。園運営においても、適正に運営されており、活気があると評価された。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由・感想
B	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達自らが経験し、実感できる環境づくりに努める。 子どもの『やりたい』という気持ちや、子ども同士の関りを大切にしており、また、個人差に配慮しながら、子どもの成長を見守るようにしている。「自分で」という気持ちが強く、出来ないことは、一人ひとりに合った援助を行うことで自信に繋げていくように考えている。 安全第一、初心を忘れず、仕事を確実にこなしていけるよう、考勤する。 何事にも、自分がやってみる事。わからない事を明確にし、それを解決するために努力する事。 職員間の対話は、とても大切な事で、とても楽しい事だと感じている。些細な会話の中に、「報・連・相」に相当するもの、保育の参考になるものがたくさんあり、それを大切にしていきたい。 軽率な考えで、物事を捉え判断しないよう、普段からそのことを意識しながら気を付けて行動した。 『ミラー効果』先生が笑顔だと子どもも笑顔になる。自らが楽しむ保育を目指す。 疑問に思った事やわからない事などは、すぐに先輩の先生に相談することができた。自分も先輩の先生にして頂いたように、後輩の相談にも乗れるようにしたい。

評価結果の表示方法 A:できた B:まあまあできた C:できなかった

6. 今後の取り組むべき課題

- 様々な場面で、“もう一度、確認する”という事が出来ていなかったと思う
- 自己評価をしていく中で、知識量の少なさを感じると共に、自己研修や研究が不足していると感じた。専門知識を習得する重要性に気付き、専門書を熟読したり、研修会の方にも積極的に参加したりして、自分に磨きをかけるようにしたい。
- 園内研修の反省やアドバイスを頂いた事柄から、違った指導の方法も考えたが実現できなかった。設定保育・自由保育の垣根を越えたスムーズな遊びを提案できるよう心掛けたい。
- 保育内容をもう少しゆとりの持てる保育にしていけたらと思う。そのためには、学年同士の話し合いを密にし、お互いの意見やクラスの様子等を十分伝え合い、保育に活かせるようにしていきたい。